

わが「墳墓の地」

新制1期・八森町出身鈴木良夫

東京で「秋田を知っている」という人に出会うと、つい「じゃあ、八森は？」と聞く。知っていれば、「ニンマリ」「あ、そう」が、知らないという人には、待っていましたとばかりに「秋田音頭」でてくる、秋田名物「八森ハタハタ」の八森が、私の生まれたところ」と、よけいなことまで自慢(?)してしまふ。

その八森のことだが、八森が「過疎化の町」と化してから久しい。私は昭和24年に上京。以来、長男の身でありながら故郷に帰らず、生家は年取った叔母一人に任せっきり。いくなれば過疎の先陣を切ったわけ。ご先祖には、何とも顔向けできない心境である。

もちろん八森と縁が切れたわけではない。平均すれば、年に1・2度は冠婚葬祭で帰っている。それに「東京・八森会」もある。例年町長や町会議員さんも参加して、ハタハタ寿司など、故郷の香りも満喫させてくれる。そこの話題は、八森の人口減に歯止めがからないということだ。私のように、「第一次定年」が過ぎたような者は、ぜひ八森に帰ってきてほしいという。私はいずれ「墳墓の地」に帰る。どなたか老後を八森で住みたい方はいませんか。



町制施行35周年

八森のシンボル決まる

山本郡八森町

去る10月1日、八森町の町制35周年記念式典が八森中学校体育館で開かれました。

八森町は昭和29年に八森村と岩館村とが合併して誕生しましたが、早いもので今年で35年を迎えることになりました。これを機に町民一致団結し、「八森町の特性を生かした町づくり」に一層の努力を払っていく決意をしました。



今回の式典では、日沼頼夫氏（茂浦出身）を初の名誉町民とし、名誉町民章と銀細工の記念品を贈呈しました。

日沼氏はご存知の方も多いと思いますが、ガンとウィルスとの関連の研究で世界的にも高い評価を受けておられ、その功績に対して、既に

数々の賞を受賞されております。また日沼氏からはお返しとして、紅白の梅の木が贈られ、八森中学校に植えることになりました。

これに引き続いて、町の発展に力を尽くした功労者の方々に、菊地町長より表彰状と記念品が贈られました。

また、これまで八森町では、町のシンボルが決まっていなかったのですが、このたび皆さんから募集したアイデアを基に、町のシンボルが発表されました。

町の木には、「すぎ」

町の鳥には、「かもめ」

町の花には、「つつじ」

が選ばれました。

また、町を紹介するキャッチフレーズでは、

「波おどる」

「ハタハタの里」

「はちもり」

が採用されました。

これらは対外的にも、八森のイメージを印象づけやすく、町の宣伝におおいに役立つものと、期待しています。

この35周年記念事業の一環として、10月22日には、山村広場に町の花・つつじの苗木を植樹しました。今回は「黄れんげつつじ」という品種を千本植えました。

町では将来ここを日本一のつつじの森にしようとして2万本を目標に植樹を続けていく予定です。



縄文人になりきって

山本郡琴丘町

今年で2回目となった「縄文カーニバル・IN・琴丘」が8月5、6日にわたって行われた。初日、縄文王国国王・熊谷誠一商工会青年部長による開国宣言、鹿渡駅前から鼓笛隊の小学生がパレードのあと、230個の手紙つきの風船を空に飛ばし、はなやかなスタートをきった。



引続き行われた「縄文人コンテスト」では、家族連れで出場するチームも。3千年前の縄文人を、思いおもいに想像したコスチュームや縄文人になりきったしぐさなどで、観客を十分楽しませてくれた。

「縄文の土笛づくり」講習会や「縄文フォーラム」能代・山本の歴史をほりおこし、地域づくりのための方策を考える「講演会など初日は縄文づくしのイベントが行われた。

翌日は東北地方の覇者が集まった「全国綱引

き交歓大会」(男子の部は青森県：後潟綱引き愛好会、女子の部は岩手県：藤沢サンイチクラブがそれぞれ優勝)、オリジナルいかだで承水路横断を手こぎで競う「いかだレース」(タイム部門では平成丸、アイデア部門では5時から男子チームが優勝)、長さ2550メートル、重さ1・2トン、参加者240人という「北緯40度大綱引き大会」ところらは体を動かすものばかり。ひと汗かいて、空腹を感じた頃、琴丘町農協が提供する牛焼肉祭り、ナント和牛一頭を焼肉に。夜は昼間の疲れもなんのその、「縄文仮装盆踊り大会」で奇抜な衣裳や踊りを披露。イベント最後の催しは八郎潟残存湖での花火。色とりどり大輪の花火への歓声のなか、今年の祭も成功裡に幕を閉じた。

シンボルタワー

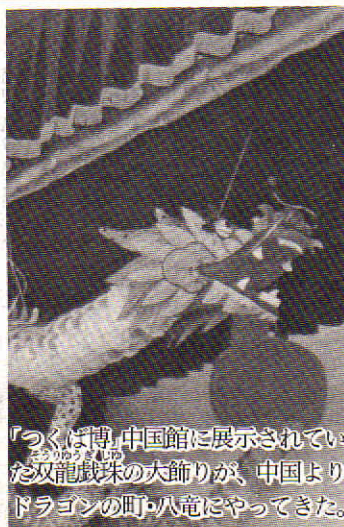
ドラゴンがお目見え

山本郡八竜町

西を日本海に臨む八竜町の景観の良さは、誰もが認めるものである。特産のメロンも県随一の味・出荷量を誇っている。けれども、もっともっと町をアピールするものを、と竜にちなんだドラゴンタワーが八竜町と能代市との境界線に設置された。

ドラゴンタワーは高さ17m。円柱にからみつく竜をデザインし、その右爪には町特産のメロンを握っているという巨大なシンボルである。

御存じのように竜は想像上の動物である。よ一層町の活性化へと、「竜勢」のごとく走り始めたわが町の行く先を、天をにらんだこの竜が導いていくかのようだ。



つくば博 中国館に展示されていた双龍戯珠の大飾りが、中国よりドラゴンの町・八竜にやってきた。

2年ぶりの再会にふるやとの香り満喫

首都圏在住の八竜町出身者で組織する東京八竜会(川村幸信会長)の総会が12月3日、東京の八重洲富士屋ホテルで開催された。今年は町から三浦町長はじめ町議会、浜口、鶴川両農協関係者など38人が上京、ホテルで153人の会員らと合流した。

会では町長から町の発展のために、幅広い情報提供をお願いする挨拶のあと、町の近況を紹介したビデオの鑑賞やキリタンボ、田煮などの郷土料理コーナーを設け、互いの旧交を温めあつた。

なお東京八竜会では、会員の発掘に力をいれています。知り合いでまだこの会を存じない方には、声をかけて下さい。